(2) 所有免許状を基礎に、在職年数と単位で幼稚園、小学校、中学校又は高等学校教諭の 上級免許状を取得する方法

基礎となる免許状を取得後、在職年数と所定の単位を修得し、上級免許状を取得します。

(免許法第6条別表第3)

①幼稚園教諭の上級免許状を取得する方法

ア 幼稚園教諭一種免許状→幼稚園教諭専修免許状(別表第3)

在職年数及び単位数	最低在職年数	最低修得単位数 ※2
基礎資格	※ 1	大学が独自に設定する科目 ※3
幼稚園教諭一種免許状を有する者	3年	1 5

【最低在職年数】

※1 幼稚園教諭一種免許状を**取得した後**に、幼稚園(特別支援学校の幼稚部を含む。)の教諭、主幹教 諭(養護又は栄養の指導及び管理をつかさどる主幹教諭を除く。)、指導教諭又は講師(幼保連携型認 定こども園の主幹保育教諭、指導保育教諭、保育教諭又は講師を含む。)として良好な成績で勤務し た年数である。

注:在職年数の算定については、必ず 108 頁「在職年数の算定方法及び実務成績証明書について」 を確認すること。

【最低修得単位数】

- ※2 幼稚園教諭一種免許状を**取得した後、**大学院の課程又は大学(短期大学を除く。)の専攻科の課程 において修得するものとする。
- ※3 『大学が独自に設定する科目』

イ 幼稚園教諭二種免許状→幼稚園教諭一種免許状(別表第3)

		基礎資					幼稚園	國教諭	二種兒	色 許状	を有~	する者	-		
		左 诞 [₹恰 ※1				,	P					/	1	
		最低在耶	競年数 ※ 2	5 年	6 年	7 年	8 年	9 年	10 年	11 年	12 年	3 年	4 年	5 年	6 年
		領域に関す	る専門的事項 ※4	4	4	3	3	2	2	1	1	2	2	1	1
	保育内		教育の理念並びに教育 に関する歴史及び思想 教職の意義及び教員の 役割・職務内容(チー												
	容の		ム学校運営への対応を		しい	ずれか	の事項	から単	・ 単位数る	・ を満た [・]	すよう	に修得	するこ	٤	
最低修得単位数	指導法に関する科目又は教諭の教育	教育の基 礎的理解 に関する 科目	含む。) 教育に関する社会的、制度的又は経営的連携との変性と地域とのの対応を含む。) 幼児、児童及び生徒の心身程 特別の見をを登める。 過程 特別の見を必要ととでの過程 特別の見、とのの過程 特別の見、とのの過程 特別の見、とのの過程 を登しているのの過程 を必び学習ととなびに関する対別に、理解 教育の方と、ののは、シェントを言います。 と、・・)	8	8	7	6	5	4	4	3	5	4	3	3
*	0	保育内容 <i>0</i>)指導法(情報機器及び												
3	基礎	教材の活用	月を含む。)		しいっ	L ずれか	L の事項	L から単	L 鱼位数3	L を満 <i>た</i> っ	L すよう	L に修得	L ゚゚するこ	ـــــــــــــــــــــــــــــــــــــ	
	的理解に関す	道徳のおりません。総学間等法及が導出を指する。	教育の方法及び技術 (情報機器及び教材の 活用を含む。) 幼児理解の理論及び方 法 教育相談(カウンセリ	. 12	11	10	9	8	7	5	4	7	6	5	4
	科目	教育相談 等に関す る科目	ングに関する基礎的な 知識を含む。) の理論 及び方法												
	等		計	20	19	17	15	13	11	9	7	12	10	8	7
	大学が独自に設定する科目 ※5			6	5	5	4	4	3	3	2	6	5	4	2
			合計	45	40	35	30	25	20	15	10	25	20	15	10

【基礎資格】

※1 『イ』は、「大学に3年以上在学し、かつ、93単位以上修得した者又は大学に2年以上及び大学の専攻科に1年以上在学し、かつ、93単位以上修得した者」であり、『ア』は、イ以外の者である。

【最低在職年数】

※2 幼稚園教諭二種免許状を**取得した後に、**幼稚園(特別支援学校の幼稚部を含む。)の教諭、主幹教諭(養護又は栄養の指導及び管理をつかさどる主幹教諭を除く。)、指導教諭又は講師(幼保連携型認定こども園の主幹保育教諭、指導保育教諭、保育教諭又は講師を含む。)として良好な成績で勤務した年数である。

最低在職年数(アの5年、イの3年)を超える在職年数には、校長、副校長、教頭、教育長、指導 主事又は社会教育主事の職にあった年数を含めて通算することができる。

注:在職年数の算定については、必ず 108 頁「在職年数の算定方法及び実務成績証明書について」 を確認すること。

【最低修得単位数】

- ※3 幼稚園教諭二種免許状を**取得した後に**、大学の認定課程や認定講習等において修得するものとする。
- ※4 『領域に関する専門的事項』

健康、人間関係、環境、言語及び表現の領域に関する専門的事項を含む科目のうち1以上の科目について修得するものとする。

※5 『大学が独自に設定する科目』

ウ 幼稚園助教諭免許状→幼稚園教諭二種免許状(別表第3)

		- 2	基礎資格			幼稚園.	助教諭免	許状を有	する者		
		最低在	E職年数 ※1	6 年	7 年	8 年	9 年	10 年	11 年	12 年	13 年
		領域に関	する専門的事項 ※3	5	4	4	3	3	2	2	1
最低生	保育内容の指導法に関する	教育の基礎 的理解に関 する科目	教育の理念並びに教育に関する 歴史及び思想 教職の意義及び教員の役割・職 務内容(チーム学校運営への対 応を含む。) 教育に関する社会的、制度的又 は経営的事項(学校と地域との 連携及び学校安全への対応を含 む。) 幼児、児童及び生徒の心身の発 達及び学習の過程 特別の支援を必要とする幼児、	10	いずれか	の事項か 8	ら単位数を 7	£満たすよ 6	うに修得 5	すること 4	3
修得単位数	科目又はは		児童及び生徒に関する理解 教育課程の意義及び編成の方法 (カリキュラム・マネジメント を含む。) 導法(情報機器及び教材の活用								
•	諭	を含む。)									
※ 2	の 教				いずれか	の事項か	ら単位数を	た満たすよ	うに修得	すること	
	\mathcal{O}	道徳、総合 的な学習の 時間等の指	教育の方法及び技術(情報機器 及び教材の活用を含む。)	20	18	16	14	12	10	8	6
	礎	導法及び生	幼児理解の理論及び方法								
	理	内 徒指導、教 世間 電子 電子 電子 電子 電子 電子 電子 電									
	す		計	30	27	24	21	18	15	12	9
			合計	45	40	35	30	25	20	15	10

【最低在職年数】

※1 幼稚園助教諭免許状を**取得した後**に、幼稚園(特別支援学校の幼稚部を含む。)の教諭、主幹教諭 (養護又は栄養の指導及び管理をつかさどる主幹教諭を除く。)、指導教諭、講師又は助教諭(幼保連 携型認定こども園の主幹保育教諭、指導保育教諭、保育教諭又は講師を含む。)として良好な成績で 勤務した年数である。

最低在職年数(6年)を超える在職年数には、校長、副校長、教頭、教育長、指導主事又は社会教育主事の職にあった年数を含めて通算することができる。

注:在職年数の算定については、必ず 108 頁「在職年数の算定方法及び実務成績証明書について」 を確認すること。

【最低修得単位数】

- ※2 幼稚園助教諭免許状を取得した後に、大学の認定課程や認定講習等において修得するものとする。
- ※3 『領域に関する専門的事項』の単位の修得方法は、健康、人間関係、環境、言語及び表現の領域に 関する専門的事項を含む科目のうち1以上の科目について修得するものとする。

②小学校教諭の上級免許状を取得する方法

ア 小学校教諭一種免許状→小学校教諭専修免許状(別表第3)

在職年数及び単位数	最低在職年数	最低修得単位数 ※2
基礎資格	※ 1	大学が独自に設定する科目 ※3
小学校教諭一種免許状を有する者	3年	15

【最低在職年数】

※1 小学校教諭一種免許状を**取得した後に**、小学校(義務教育学校の前期課程及び特別支援学校の小学部を含む。)の教諭、主幹教諭(養護又は栄養の指導及び管理をつかさどる主幹教諭を除く。)、指導教諭又は講師として良好な成績で勤務した年数である。

注:在職年数の算定については、必ず 108 頁「在職年数の算定方法及び実務成績証明書について」 を確認すること。

【最低修得単位数】

- ※2 小学校教諭一種免許状を**取得した後に**、大学院の課程又は大学(短期大学を除く。)の専攻科の課程において修得するものとする。
- ※3 『大学が独自に設定する科目』

イ 小学校教諭二種免許状→小学校教諭一種免許状(別表第3)

		甘 7	遊資格 ※ 1		1	 小学	 校教	諭二	. 種兌	色許	状を	有す		<u>——</u>	
		左1	定貝俗 次 1				7	7					/	ſ	
		最低	在職年数 ※2	5 年	6 年	7 年	8 年	9 年	10 年	11 年	12 年	3 年	4 年	5 年	6 年
		教科に関	周する専門的事項 ※ 4	4	4	3	3	2	2	1	1	2	2	1	1
最低修品	各教科の指導法に関する科目又は	教育の基 礎的理解 に関する 科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。) 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校との対応を含む。) 教育に関する社会の、制度的又は経営的事項(学校との連携及び学校安全への対応を含む。) 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に関する理解 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメ	5	ッポ オ	ιカ · σ.	4	3	3	2	2	3	3	2	2
得単	教 諭	各教科の排													
位数	の教育の	含む。)	道徳の理論及び指導法 総合的な学習の時間の指導法	V	ずわ	しかっの	事項	から	単位	ご数を	満た	-すよ	うに	修得	4
% 3) 基礎的理解に関する科目等	道合習等法徒教等る、な時指び導相関目総学間導生、談す	特別活動の指導法 教育の方法及び技術 情報通信技術を活用した教育 の理論及び方法 生徒指導の理解及び方法 教育相談(カウンセリングに 関する基礎的な知識を含 む。)の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の 理論及び方法	16	14	13	11	10	8	7	5	10	8	7	5
	-		計	21	19	17	15	13	11	9	7	13	11	9	7
		大学が独	自に設定する科目 ※5	5	5	4	4	3	3	2	2	5	4	3	2
			合計	45	40	35	30	25	20	15	10	25	20	15	10

【基礎資格】

※1 『イ』は、「大学に3年以上在学し、かつ、93単位以上修得した者又は大学に2年以上及び大学の専攻科に1年以上在学し、かつ、93単位以上修得した者」であり、『ア』は、イ以外の者である。

【最低在職年数】

※2 小学校教諭二種免許状を**取得した後に、**小学校(義務教育学校の前期課程及び特別支援学校の小学部を含む。)の教諭、主幹教諭(養護又は栄養の指導及び管理をつかさどる主幹教諭を除く。)、指導教諭又は講師として良好な成績で勤務した年数である。

最低在職年数(アの5年、イの3年)を超える在職年数には、校長、副校長、教頭、教育長、指導 主事又は社会教育主事の職にあった年数を通算することができる。

注:在職年数の算定については、必ず 108 頁「在職年数の算定方法及び実務成績証明書について」 を確認すること。

【最低修得単位数】

- ※3 小学校教諭二種免許状を**取得した後に**、大学の認定課程や認定講習等において修得するものとする。
- ※4 『教科に関する専門的事項』

国語(書写を含む。)、社会、算数、理科、生活、音楽、図画工作、家庭、体育及び外国語(英語、ドイツ語、フランス語その他の各外国語に分ける。)の教科に関する専門的事項のうち、1以上の科目について修得するものとする。

※5 『大学が独自に設定する科目』

ウ 小学校助教諭免許状→小学校教諭二種免許状(別表第3)

			基礎資格		小学村	交助参	女諭免	許状	を有っ	上る者	:
		最低	在職年数 ※1	6 年	7 年	8 年	9 年	10 年	11 年	12 年	13 年
		教科に関	引する専門的事項 ※3	4	4	3	3	2	2	1	1
	各教科の		教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)				の事り うに値				
	指導法に関す	教育の基 礎的理解 に関する 科目	教育に関する社会的、制度的 又は経営的事項(学校と地域 との連携及び学校安全への対 応を含む。) 幼児、児童及び生徒の心身の 発達及び学習の過程	7	6	6	5	4	3	3	2
最低修得	る科目又は教		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に関する理解 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)								
得単位	諭の	各教科の指 含む。)	導法(情報通信技術の活用を								
数	教育の		道徳の理論及び指導法 総合的な学習の時間の指導法		· ·		の事り				
% 2	基	道徳、総	特別活動の指導法		11, 3, 4			<i>></i> 13 <i>></i>			
	礎的理解	合的な学 習の時間 等の指導 法及び生	教育の方法及び技術 情報通信技術を活用した教育 の理論及び方法	22	20	17	15	13	11	8	6
	に関する科目等	徒指導、 教育相談 等に関す る科目	生徒指導の理解及び方法 教育相談(カウンセリングに 関する基礎的な知識を含 む。)の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の 理論及び方法								
	-27		計	29	26	23	20	17	14	11	8
	大学が独自に設定する科目 ※4			2	2	2	2	1	1	1	1
			合計	45	40	35	30	25	20	15	10

【最低在職年数】

※1 小学校助教諭免許状を**取得した後に、**小学校(義務教育学校の前期課程及び特別支援学校の小学部を含む。)の教諭、主幹教諭(養護又は栄養の指導及び管理をつかさどる主幹教諭を除く。)、指導教諭、講師又は助教諭として良好な成績で勤務した年数である。

最低在職年数(6年)を超える在職年数には、校長、副校長、教頭、教育長、指導主事又は社会教育主事の職にあった年数を含めて通算することができる。

注:在職年数の算定については、必ず 108 頁「在職年数の算定方法及び実務成績証明書について」 を確認すること。

【最低修得単位数】

- ※2 小学校助教諭免許状を取得した後に、大学の認定課程や認定講習等において修得するものとする。
- ※3 『教科に関する専門的事項』

国語(書写を含む。)、社会、算数、理科、生活、音楽、図画工作、家庭、体育及び外国語(英語、ドイツ語、フランス語その他の各外国語に分ける。)の教科に関する専門的事項のうち、1以上の科目について修得するものとする。

※4 『大学が独自に設定する科目』

工 小学校教諭特別免許状→小学校教諭専修免許状(別表第3)

			基礎資格	小学校教諭特別免許状を有する者
		最但	【在職年数 ※ 1	3年
最低	各教科の指導法に関する科目又は	教育の基 礎的理解 に関する 科目	教育の理念並びに教育に関する 歴史及び思想 教職の意義及び教員の役割・職 務内容(チーム学校運営への対応を含む。) 教育に関する社会的、制度的又 は経営的事項(学校と地域との 連携及び学校安全への対応を含む。) 幼児、児童及び生徒の心身の発 達及び学習の過程 特別の支援を必要とする幼児、 児童及び生徒に関する理解 教育課程の意義及び編成の方法 (カリキュラム・マネジメント を含む。)	いずれかの事項から単位数を 満たすように修得すること 6
修得単	教諭の		・ ・ ・ 3	国語等の教科の指導法について、それ ぞれ2以上
位数 ※ 2	教育の基礎的理解に関する科目等	道合習等法徒教等る 大総学間導生、談す	道徳の理論及び指導法 総合的な学習の時間の指導法 特別活動の指導法 教育の方法及び技術 情報通信技術を活用した教育の 理論及び方法 生徒指導の理解及び方法 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の 理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理 論及び方法 計 自に設定する科目 ※4	いずれかの事項から単位数を 満たすように修得すること 4 26 15
		大字か独	日に設定する科目 ※4 合計	15 41
			П Г'	1

【最低在職年数】

- ※1 小学校教諭特別免許状を**取得した後に、**小学校(義務教育学校の前期課程及び特別支援学校の小学部を含む。)の教諭、主幹教諭(養護又は栄養の指導及び管理をつかさどる主幹教諭を除く。)、指導教諭又は講師として良好な成績で勤務した年数である。
 - 注:在職年数の算定については、必ず 108 頁「在職年数の算定方法及び実務成績証明書について」 を確認すること。

【最低修得単位数】

- ※2 小学校教諭特別免許状を**取得した後に**、大学の認定課程や認定講習等において修得するものとする。
- ※3 『各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)』

国語(書写を含む。)、社会、算数、理科、生活、音楽、図画工作、家庭、体育及び外国語(英語、ドイツ語、フランス語その他の各外国語に分ける。)の教科の指導法に関する科目のうち、当該小学校教諭特別免許状の教科以外の教科の指導法に関する科目についてそれぞれ2単位以上修得するものとする。

- ※4 『大学が独自に設定する科目』
 - (1) 大学院の課程又は大学(短期大学を除く。)の専攻科の課程において修得するものとする。
 - (2) 『教科及び教科の指導法に関する科目』、『教育の基礎的理解に関する科目』、『道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目』、『教育実践に関する科目』、大学が加えるこれらに準ずる科目又は指定大学が加える科目を修得するものとする。

才 小学校教諭特別免許状→小学校教諭一種免許状(別表第3)

			基礎資格	小学校教諭特別免許状を有する者
			最低在職年数 ※1	3年
最低修	各教科の指導法に関する科口	教育の基 礎的理解 に関する 科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。) 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 (学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。) 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に関する理解 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	いずれかの事項から単位数を 満たすように修得すること 6
得単位	る科目	各教科の指	選送(情報通信技術の活用を含む。) ※3	国語等の教科の指導法について、それぞ れ2以上
数	日教 等諭		道徳の理論及び指導法	
*	\mathcal{O}	道徳、総	総合的な学習の時間の指導法	いずれかの事項から単位数を
2	教 育	合的な学 習の時間	特別活動の指導法	満たすように修得すること
	0	等の指導	教育の方法及び技術	,
	基礎	法及び生 徒指導、	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	4
	的	教育相談	生徒指導の理解及び方法	
	理 解	等に関す る科目	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な 知識を含む。)の理論及び方法	
	に		進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	
			合計	26

【最低在職年数】

※1 小学校教諭特別免許状を**取得した後に、**小学校(義務教育学校の前期課程及び特別支援学校の小学部を含む。)の教諭、主幹教諭(養護又は栄養の指導及び管理をつかさどる主幹教諭を除く。)、指導教諭又は講師として良好な成績で勤務した年数である。

注:在職年数の算定については、必ず 108 頁「在職年数の算定方法及び実務成績証明書について」 を確認すること。

【最低修得単位数】

- ※2 小学校教諭特別免許状を**取得した後に**、大学の認定課程や認定講習等において修得するものとする。
- ※3 『各教科の指導法に関する科目(情報通信技術の活用を含む。)』

国語(書写を含む。)、社会、算数、理科、生活、音楽、図画工作、家庭、体育及び外国語(英語、ドイツ語、フランス語その他の各外国語に分ける。)の教科の指導法に関する科目のうち、当該小学校教諭特別免許状の教科以外の教科の指導法に関する科目についてそれぞれ2単位以上修得するものとする。

③中学校教諭の上級免許状を取得する方法(同一教科に限る)

ア 中学校教諭 一種免許状→中学校教諭専修免許状 (別表第3)

在職年数及び単位数	最低在職年数	最低修得単位数 ※2
基礎資格	※ 1	大学が独自に設定する科目 ※3
中学校教諭一種免許状を有する者	3年	15

【最低在職年数】

※1 中学校教諭一種免許状を**取得した後に、**中学校(義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程及び特別支援学校の中学部を含む。)の教諭、主幹教諭(養護又は栄養の指導及び管理をつかさどる主幹教諭を除く。)、指導教諭又は講師として良好な成績で勤務した年数である。

注:在職年数の算定については、必ず 108 頁「在職年数の算定方法及び実務成績証明書について」 を確認すること。

【最低修得単位数】

- ※2 中学校教諭一種免許状を**取得した後に**、大学院の課程又は大学(短期大学を除く。)の専攻科の課程において修得するものとする。
- ※3 『大学が独自に設定する科目』

イ 中学校教諭二種免許状→中学校教諭一種免許状(同一教科に限る)(別表第3)

		廿	ア株 /欠 +タ		Ε	中学	校教	:諭_		色許;	状を	有す		<u>F</u>	
		左	礎資格 ※ 1				,	r					/	ſ	
		最但	· 在職年数 ※ 2	5 年	6 年	7 年	8 年	9 年	10 年	11 年	12 年	3 年	4 年	5 年	6 年
		教科に	関する専門的事項 ※4	10	9	8	7	6	5	4	3	6	5	4	3
最低修得	各教科の指導法に関する科目又は数	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)教育に関する社会的、制度的又教育の基礎的事項(学校と地域との対応を含む。) 対別の支援を全への対応を含む。) 対別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に関する理解教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		6	いず <i>計</i>	ンカング 5	5 5	も	3	2	2 2	4	3	3	2
得単位	教諭のお	各教科の指 む。)	音導法(情報通信技術の活用を含												
数	教 育		道徳の理論及び指導法	V	ずれ	しかり	つ事り	頁から) 単位	立数を	と満た	こすよ	こうに	こ修得	‡
*	\mathcal{O})\{\dagger} \(\dagger	総合的な学習の時間の指導法												
3	基礎	道徳、総 合的な学	特別活動の指導法												
	一 理解に	習の時間 等の指導 法及び生 徒指導、	教育の方法及び技術 情報通信技術を活用した教育の 理論及び方法 生徒指導の理解及び方法	10	9	9	7	6	5	4	3	6	6	4	3
	関する科目等	教育相談 等に関す る科目	を使指導の理解及び方法 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の 理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理 論及び方法												
	等 計			16	15	14	12	10	8	6	5	10	9	7	5
		大学が独	R自に設定する科目 ※5	4	4	4	3	3	2	2	2	4	3	2	2
			合計	45	40	35	30	25	20	15	10	25	20	15	10

【基礎資格】

※1 『イ』は、「大学に3年以上在学し、かつ、93単位以上修得した者又は大学に2年以上在学及び 大学の専攻科に1年以上在学し、かつ、93単位以上修得した者」であり、『ア』は、イ以外の者で ある。

【最低在職年数】

※2 中学校教諭二種免許状を**取得した後に、**中学校(義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程及び特別支援学校の中学部を含む。)の教諭、主幹教諭(養護又は栄養の指導及び管理をつかさどる主幹教諭を除く。)、指導教諭又は講師として良好な成績で勤務した年数である。

最低在職年数(アの5年、イの3年)を超える在職年数には、校長、副校長、教頭、教育長、指導 主事又は社会教育主事の職にあった年数を通算することができる。また、これに加え、専科担任制度 により小学校(義務教育学校の前期課程若しくは特別支援学校の小学部を含む。)において主幹教諭、 指導教諭、教諭又は講師の職にあった期間を含め通算することができる。

注:在職年数の算定については、必ず108頁「在職年数の算定方法及び実務成績証明書について」を確認すること。

【最低修得単位数】

- ※3 中学校教諭二種免許状を**取得した後に**、大学の認定課程や認定講習等において修得するものとする。
- ※4 『教科に関する専門的事項』は49、50ページに示すところにより修得しなければならない。
- ※5 『大学が独自に設定する科目』

中学校の教科に関する専門的事項に関する科目及び最低修得単位数(2-1)

せんてい	ᄲᄭᇋᇚᅩᇫᆂᄜᄮᆂᆓᇰᇎᄩᅩᅩᇫᄭᆸ		J	最低修	氐修得単位数				
教科	教科に関する専門的事項に関する科目	3	4	5	6	7	8以上		
	国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む。)		•		-		•		
戸金	国文学(国文学史を含む。)								
国語	· 漢文学								
	日本史・外国史								
	地理学(地誌を含む。)								
社会	「法律学、政治学」								
	「社会学、経済学」								
	「哲学、倫理学、宗教学」								
	代数学								
									
数学	 解析学								
	「確率論、統計学」								
	コンピュータ								
	物理学								
理科							4		
	 地学				利	科 目			
	 物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験						以上		
	ソルフェージュ		2 科		3				
	 声楽(合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。)			1 7	卧				
音楽			目 以		目 以				
H >IC		上		<u></u>	È				
	音楽理論・作曲法(編曲法を含む。)・音楽史 (日本の伝統音楽及 び諸民族の音楽を含む。)								
	絵画(映像メディア表現を含む。)								
	彫刻								
美術	デザイン(映像メディア表現を含む。)								
	工芸								
	美術理論・美術史(鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を 含む。)								
	体育実技								
	「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育 史」・運動学(運動方法学を含む。)								
保健体育	生理学(運動生理学を含む。)								
	 学校保健(小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。)								
	生理学・栄養学								
保健						3科	目以上		
	学校保健(小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。)								
	材料加工(実習を含む。)								
11.25-	機械・電気(実習を含む。)								H D. J
技術	 生物育成					4 科	目以上		

中学校の教科に関する専門的事項に関する科目及び最低修得単位数 (2-2)

数利に関わる専用的事項に関わる利口		占	位数	拉数		
変性に関する等門の事場に関する性目	3	4	5	6	7	8以上
家庭経営学(家族関係学及び家庭経済学を含む。)						
被服学(被服実習を含む。)	1					5 科
食物学(栄養学、食品学及び調理実習を含む。)						目
住居学					_	以 上
保育学]				目	
産業概説					以上	4
職業指導						科 目
「農業、工業、商業、水産」						以
「農業実習、工業実習、商業実習、水産実習、 商船実習」	1	2 81.	;	3 SL		上
職業指導			1	1		
職業指導の技術	اً	以 ト	Ţ	以 ト	3科	目以上
職業指導の運営管理]	_		_		
英語学						
英語文学	1				4 🐒	п N. I.
英語コミュニケーション	1				4件	日以上
異文化理解]					
宗教学	1					
宗教 宗教史]				3科	目以上
「教理学、哲学」	1					
	被服学(被服実習を含む。) 食物学(栄養学、食品学及び調理実習を含む。) 住居学 保育学 産業概説 職業指導 「農業、工業、商業、水産」 「農業実習、工業実習、商業実習、水産実習、商船実習」 職業指導 職業指導の技術 職業指導の運営管理 英語学 英語コミュニケーション 異文化理解 宗教学 宗教史	家庭経営学(家族関係学及び家庭経済学を含む。) 被服学(被服実習を含む。) 食物学(栄養学、食品学及び調理実習を含む。) 住居学 保育学 産業概説 職業指導 「農業、工業、商業、水産」 「農業実習、工業実習、商業実習、水産実習、商船実習」 職業指導 職業指導の技術 職業指導の運営管理 英語学 英語文学 英語コミュニケーション 異文化理解 宗教学 宗教史	教科に関する専門的事項に関する科目 3 4 家庭経営学 (家族関係学及び家庭経済学を含む。) 被服学 (被服実習を含む。) 食物学 (栄養学、食品学及び調理実習を含む。) 住居学 保育学 産業概説 職業指導 「農業、工業、商業、水産」 「農業、工業、商業、水産」 「農業実習、工業実習、商業実習、水産実習、商船実習」 職業指導 職業指導の進営管理 英語学 英語コミュニケーション 異文化理解 宗教学 宗教史	教科に関する専門的事項に関する科目 3 4 5 家庭経営学(家族関係学及び家庭経済学を含む。) 被服学(被服実習を含む。) 食物学(栄養学、食品学及び調理実習を含む。) 住居学 保育学 産業概説 職業指導 「農業、工業、商業、水産」 「農業実習、工業実習、商業実習、水産実習、商船実習」 職業指導の技術 職業指導の運営管理 英語学 英語コミュニケーション 異文化理解 宗教学 宗教史	教科に関する専門的事項に関する科目 3 4 5 6 6	3 4 5 6 7

備考

- 1 英語以外の外国語の免許状の授与を受ける場合の教科に関する専門的事項に関する科目の単位の修得方法は、それぞれ英語の場合の例によるものとする。
- 2 「 」に表示された教科に関する専門的事項に関する科目の単位の修得方法は、「 」の中から選択して修得することができる。

ウ 中学校助教諭免許状→中学校教諭二種免許状(同一教科に限る)(別表第3)

			中学校助教諭免許状を有する者										
	最低在職年数 ※1						9 #	10	11	12	13		
		数 彩.1.		年 10	年 9	年 8	年 7	年 6	年 5	年 4	年 3		
	各教科の	3.711	教育の理念並びに教育に関する歴史 及び思想 教職の意義及び教員の役割・職務内 容(チーム学校運営への対応を含		いずれかの事項から単位数を 満たすように修得すること								
最低修	指導法に関する科目又は	教育の基 礎的理解 に関する 科目	む。) 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。) 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に関する理解 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	9	8	7	6	6	5	4	3		
得単	教 諭	各教科の指 む。)	f導法(情報通信技術の活用を含										
- 位 数	の 教		道徳の理論及び指導法	1 1	いずれかの事項から単位数を								
刻	育 の		総合的な学習の時間の指導法	ļ L	満たすように修得すること								
% 2	基礎的理	道徳、総 合的の時間 等の指導 法及び生	特別活動の指導法 教育の方法及び技術 情報通信技術を活用した教育の理論	12	11	10	9	7	6	5	3		
	解に関する科目な	を 徒指導、 教育相談 等に関す る科目	及び方法 生徒指導の理解及び方法 教育相談(カウンセリングに関する 基礎的な知識を含む。)の理論及び 方法 進路指導及びキャリア教育の理論及 び方法										
	等		<u>=</u> +	21	19	17	15	13	11	9	6		
		大学が	独自に設定する科目 ※4	4	4	3	3	2	2	1	1		
			45	40	35	30	25	20	15	10			

【最低在職年数】

※1 中学校助教諭免許状を**取得した後に**、中学校(義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程 及び特別支援学校の中学部を含む。)の教諭、主幹教諭(養護又は栄養の指導及び管理をつかさどる 主幹教諭を除く。)、指導教諭、講師又は助教諭として良好な成績で勤務した年数である。

最低在職年数を超える在職年数には、校長、副校長、教頭、教育長、指導主事又は社会教育主事の職にあった年数を含め通算することができる。

注:在職年数の算定については、必ず 108 頁「在職年数の算定方法及び実務成績証明書について」 を確認すること。

【最低修得単位数】

- ※2 中学校助教諭免許状を取得した後に、大学の認定課程や認定講習等において修得するものとする。
- ※3 『教科に関する専門的事項』は、49、50ページに示すところにより修得しなければならない。
- ※4 『大学が独自に設定する科目』

エ 中学校教諭特別免許状→中学校教諭専修免許状(同一教科に限る)(別表第3)

			中学校助教諭免許状を有する者	
			3年	
最低修	各教科の指導法に関する科目	教育の基 礎的理解 に関する 科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム 学校運営への対応を含む。) 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 (学校と地域との連携及び学校安全への対応を 含む。) 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に 関する理解 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	いずれかの事項から単位数を 満たすように修得すること 6
得単位数 ※ 2	る科目等 日又は教諭の教育の基礎的理解	道合習等法徒教等る (総学間導生、談する) (道徳の理論及び指導法 総合的な学習の時間の指導法 特別活動の指導法 教育の方法及び技術 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法 生徒指導の理解及び方法 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	いずれかの事項から単位数を 満たすように修得すること 4
	に		計	10
		J	て学が独自に設定する科目 ※3	15
			合計	25

【最低在職年数】

※1 中学校教諭特別免許状を**取得した後に、**中学校(義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程及び特別支援学校の中学部を含む。)の教諭、主幹教諭(養護又は栄養の指導及び管理をつかさどる主幹教諭を除く。)、指導教諭又は講師として良好な成績で勤務した年数である。

注:在職年数の算定については、必ず 108 頁「在職年数の算定方法及び実務成績証明書について」 を確認すること。

【最低修得単位数】

- ※2 中学校教諭特別免許状を**取得した後に**、大学の認定課程や認定講習等において修得するものとする。ただし、『大学が独自に設定する科目』は、大学院の課程又は大学(短期大学を除く。)の専攻科の課程において修得するものとする。
- ※3 『大学が独自に設定する科目』

④高等学校教諭の上級免許状を取得する方法(同一教科に限る)

ア 高等学校教諭一種免許状→高等学校教諭専修免許状(別表第3)

在職年数及び単位数	最低在職年数	最低修得単位数 ※2						
基礎資格	※ 1	大学が独自に設定する科目 ※3						
高等学校教諭一種免許状を有する者	3年	15						

【最低在職年数】

※1 高等学校教諭一種免許状を**取得した後に**、高等学校(中等教育学校の後期課程及び特別支援学校 の高等部を含む。)の教諭、主幹教諭(養護又は栄養の指導及び管理をつかさどる主幹教諭を除く。)、 指導教諭又は講師として良好な成績で勤務した年数である。

注:在職年数の算定については、必ず 108 頁「在職年数の算定方法及び実務成績証明書について」 を確認すること。

【最低修得単位数】

- ※2 高等学校教諭一種免許状を**取得した後に**、大学院の課程又は大学(短期大学を除く。)の専攻科の 課程において修得するものとする。
- ※3 『大学が独自に設定する科目』

イ 高等学校助教諭免許状→高等学校教諭一種免許状(同一教科に限る)(別表第3)

甘7株次4ケ 火 1				高等学校助教諭免許状を有する者													-						
基礎資格 ※1				P 1										ウ									
最低在職年数 ※2			5 年	6 年	7 年	8 年	9 年	10 年	11 年	12 年	5 年	6 年	7 年	8 年	9 年	10 年		12 年	3 年	4 年	5 年	6 年	
	教	教科に関する専門的事項 ※4			9	8	7	6	5	4	3	10	9	8	7	6	5	4	3	5	4	3	3
最低修得単	各教科の指導法に関する科目又は教諭の教育の基	教育の基 の基 解 る	教育思想 教の(の教的的と全む幼の習別を提供を関係を関係を関係を対して、対方に制項連の) 別の過の幼に課のうる 義職学含す的学及応 童発 といる ののののののののののののののののののののののののののののののののののの	5	5	4	ਪਰ੍ਹਾਂ; 4	れか [*]	の事	2	2	7	数を 6	満た 6	5 5	5	こ修 4	得す 3	2	5	4	3	2
位 数 ※		各教科の指導法(情報通信技術 の活用を含む。) 総合的な探求の時間																					
3	礎 的		の指導法			,	/小ご	h ふ	┣ あま	上上	\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	H (六:	粉ま	港 ナ	ナ1	- 21	ァ版	但士	 `るこ	し	<u> </u>		
	理		特別活動の指導法				. 9 %	10/JA	vノ事 	"垻//	140E	ド 1火5	奴で	何/ご	. y d	、 フィ	□1000	1寸り	<u>る</u> _	. C			
	解に関する科目等 ※5	道合習等法徒教等る総学間導生、談す目	教育の方法及び技術 情報通信技術を活用 した教育の理論及び 方法 生徒指導の理解及び 方法 教育相談(カウンセ リングに関き含む。) の理論及び方法 進路指導及びきャリア教育の理論及びキャリア教育の理論及び方法	7	6	6	5	4	3	3	2	9	9	8	8	6	6	5	2	6	6	4	2
	1.3	일수.18XH 년 1 - =	計	12	11	10	9	7	6	5	4	16		14		11	10	8	4	11	10	7	4
	大		投定する科目 ※6	8	8	7	6	5	4	3	3	8	8	7	6	5	4	3	3	8	6	5	3
合計			45	40	35	30	25	20	15	10	45	40	35	30	25	20	15	10	25	20	15	10	

【基礎資格】

※1 『イ』は、「大学に2年以上在学し、62単位以上修得した者又は高等専門学校を卒業した者」であり、『ウ』は、「大学に3年以上在学し、かつ、93単位以上修得した者又は大学に2年以上及び大学の専攻科に1年以上在学し、かつ、93単位以上修得した者」であり、『ア』は、イ又はウ以外の者である。

【最低在職年数】

※2 高等学校助教諭免許状を**取得した後に**、高等学校(中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の 高等部を含む。)の教諭、主幹教諭(養護又は栄養の指導及び管理をつかさどる主幹教諭を除く。)、 指導教諭、講師又は助教諭として良好な成績で勤務した年数である。

最低在職年数を超える在職年数には、校長、副校長、教頭、教育長、指導主事又は社会教育主事の職にあった年数を含めて通算することができる。

注:在職年数の算定については、必ず 108 頁「在職年数の算定方法及び実務成績証明書について」 を確認すること。

【最低修得単位数】

- ※3 高等学校助教諭免許状を**取得した後に**、大学の認定課程や認定講習等において修得するものとする。
- ※4 『教科に関する専門的事項』
 - 57、58ページに示すところにより修得しなければならない。
- ※5 『各教科の指導法に関する科目』、『教育の基礎的理解に関する科目』、『道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目』又は『教育実践に関する科目』の単位について、イ又はウの場合で、大学又は高等専門学校において教職に関する科目を修得している場合は、4単位(イの11年…3単位、ウの5年…2単位、イの12年及びウの6年は差し引かない。)を上限として、『各教科の指導法に関する科目又は教諭の教育の基礎的理解に関する科目等』の合計単位数から差し引くことができる。
- ※6 『大学が独自に設定する科目』

高等学校の教科に関する専門的事項に関する科目及び最低修得単位数 (2-1)

			最低修得単位数						
教科	教科に関する専門的事項	3 4	1	5 6	7	8以上			
	国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む。)	-							
国語	学(国文学史を含む。)				3 乖	科目以上			
	漢文学								
	日本史					4			
地理	外国史					科口			
歴史	人文地理学・自然地理学					目 以			
	地誌					上			
	「法律学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。)」								
公民	「社会学、経済学(国際経済を含む。)」				3 乖	4目以上			
	「哲学、倫理学、宗教学、心理学」								
	代数学								
	幾何学								
数学	解析学								
	コンピュータ								
	物理学								
	化学					5 ∡i			
理科	生物学			3 科目以上		科 目			
						以			
	- · · · · · · · · ·	2				上			
	ソルフェージュ	科							
	┃ 声楽(合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。)	目以							
音楽	器楽(合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。)	上							
	指揮法								
	音楽理論・作曲法(編曲法を含む。)・音楽史 (日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。)				4				
	絵画(映像メディア表現を含む。)				科				
	彫刻	-			目				
美術	プレー・デザイン(映像メディア表現を含む。)				以 上				
	美術理論・美術史(鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。)								
	図法・製図					4			
	デザイン					4 科			
工芸	プッコン 工芸制作(プロダクト制作を含む。)					目			
	工芸理論・デザイン理論・美術史(鑑賞並びに日本の伝統工芸及びアジアの工芸を含む。)					以 上			
	書道(書写を含む。)								
	書道史								
書道	「書論、鑑賞」								
	「国文学、漢文学」								
	体育実技 					5			
保健						科 目			
体育	生理学(運動生理学を含む。)					以			
	衛生学・公衆衛生学		Ě						
	学校保健(小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。)								

高等学校の教科に関する専門的事項に関する科目及び最低修得単位数 (2-2)

			最低修得単位数							
教科	教科に関する専門的事項	3	4	5	6	7	8以上			
	「生理学、栄養学、微生物学、解剖学」	Г								
保健	衛生学・公衆衛生学	1					3			
	学校保健(小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。)						科			
	「生理学、生化学、病理学、微生物学、薬理学」	1					目 以			
看護	看護学(成人看護学、老年看護学及び母子看護学を含む。)						上			
	看護実習									
	家庭経営学(家族関係学及び家庭経済学を含む。)	1		3						
	被服学(被服実習を含む。)			科目						
家庭	食物学(栄養学、食品学及び調理実習を含む。)			IJ						
	住居学			上	-	4	5			
	保育学					科目	科目			
	情報社会(職業に関する内容を含む。)・情報倫理					以	以以			
	コンピュータ・情報処理					上	上			
情報	情報システム									
	情報通信ネットワーク									
	マルチメディア表現・マルチメディア技術									
農業	農業の関係科目									
	職業指導									
工業	工業の関係科目									
	職業指導	, ا				2				
商業	商業の関係科目 ロール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		2 斗			科目				
1117/10	職業指導					以				
水産	水産の関係科目		人 二			上				
八位	職業指導	↓ ¯	_							
商船	商船の関係科目									
103/30	職業指導									
	社会福祉学(職業指導を含む。)									
	高齢者福祉・児童福祉・障害者福祉					4 科				
	社会福祉援助技術						6 科			
福祉	介護理論・介護技術					目以	目以			
	社会福祉総合実習(社会福祉援助実習及び社会福祉施設等における介護実習を含む。)					上	上			
	人体構造に関する理解・日常生活行動に関する理解									
	加齢に関する理解・障害に関する理解]								
m+h 식사스	職業指導			3 科						
職業 指導	職業指導の技術			目		3 科	·目以上			
	職業指導の運営管理]		以 上						
	英語学									
英語	英語文学					4科目以上				
大 阳	英語コミュニケーション									
	異文化理解	1								
	宗教学									
宗教	宗教史	3 科目.					·目以上			
	「教理学、哲学」	L								
備考										

備孝

- 1 英語以外の外国語の免許状の授与を受ける場合の教科に関する専門的事項に関する科目の単位の修得方法は、それぞれ英語の場合の例によるものとする。
- 2 「 」に表示された教科に関する専門的事項に関する科目の単位の修得方法は、「 」の中から選択して 修得することができる。

ウ 高等学校教諭特別免許状→高等学校教諭専修免許状(同-教科に限る)(別表第3)

			基礎資格	高等学校教諭特別免許状を有する者					
		最低	在職年数 ※1	3年					
最低修品	各教科の指導法に関する科目		教育の理念並びに教育に関する歴史及 び思想 教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。) 教育に関する社会的、制度的又は経営 的事項(学校と地域との連携及び学校 安全への対応を含む。) 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び 学習の過程 特別の支援を必要とする幼児、児童及 び生徒に関する理解 教育課程の意義及び編成の方法(カリ キュラム・マネジメントを含む。)	いずれかの事項から単位数を 満たすように修得すること 6					
位	5科目等 ロスは教諭の教育の基礎的理	道徳、総合的 な学習導場 等の指導 び生徒指 教育 を 教育 を 科目	総合的な探求の時間の指導法 特別活動の指導法 教育の方法及び技術 情報通信技術を活用した教育の理論及 び方法 生徒指導の理解及び方法 教育相談(カウンセリングに関する基 礎的な知識を含む。)の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び 方法	いずれかの事項から単位数を 満たすように修得すること 4					
<u> </u>	解		計	10					
		大学が	独自に設定する科目 ※3	15					
			合計	25					

【最低在職年数】

※1 高等学校教諭特別免許状を**取得した後に**、高等学校(中等教育学校の後期課程及び特別支援学校 の高等部を含む。)の教諭、主幹教諭 (養護又は栄養の指導及び管理をつかさどる主幹教諭を除く。)、 指導教諭又は講師として良好な成績で勤務した年数である。

注:在職年数の算定については、必ず 108 頁「在職年数の算定方法及び実務成績証明書について」 を確認すること。

【最低修得単位数】

- ※2 高等学校教諭特別免許状を**取得した後に**、大学の認定課程や認定講習等において修得するものとする。ただし、『大学が独自に設定する科目』は、大学院の課程又は大学(短期大学を除く。)の専攻科の課程において修得するものとする。
- ※3 『大学が独自に設定する科目』